

平成 31 年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査について

（本調査は、全国悉皆調査で第 6 学年児童を対象に 4 月に実施されたもの）

1 学力調査に関する結果の概要

【国 語】

- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる力が身に付いている。
- 目的に応じて、本や文章全体のあらましを見渡して効果的に読むことができている。
- 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にしてまとめて書くことに課題がある。

【算 数】

- 資料の特徴や傾向を読み取り、判断する等、量と測定領域の知識・技能がよく身に付いている。
- 場面の状況に応じて、数学的に表現・処理したり、判断したりする力が身に付いている。
- 計算の仕方や式の意味を解釈したり、考察したりすることに課題がある。

2 児童（生徒）質問紙に関する結果の概要

- 学校のきまりを守って生活する力が身に付いている。
- 目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしようとする意識が高い。
- 学習したことを他の学習や日頃の生活の中で活用しようとする意識に課題がある。

3 取組についての評価

(1) 教科に関する取組

① 効果があった取組

- ・全教職員による 4・5・6 年を対象とした「みなかぜ塾」（少人数学習）の実施
- ・全校での授業改善の推進（書く活動と対話活動を位置づけた授業）

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・目的や意図に応じた書き方の指導の充実を図る。（何を書くのかを明確にした書く時間の設定）
- ・指導方法工夫改善教員を中心とした習熟度別分割学習の日常化を図る。
- ・社会科や総合的な学習の時間を中心に、資料を解釈して分類・整理する学習を充実させる。

(2) 児童（生徒）質問紙の内容に関する取組

① 効果があった取組

- ・全校で足並みを揃えた学び方の指導と児童会を中心とした安全・安心な学校生活に向けた取組
- ・モデルノートの提示と「ノート名人」、「自主学習名人」の取組

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・高学年を中心に予習などを取り入れた宿題を充実させる。
- ・学習したことを他の学習や生活場面で活用できるような課題設定を行う。